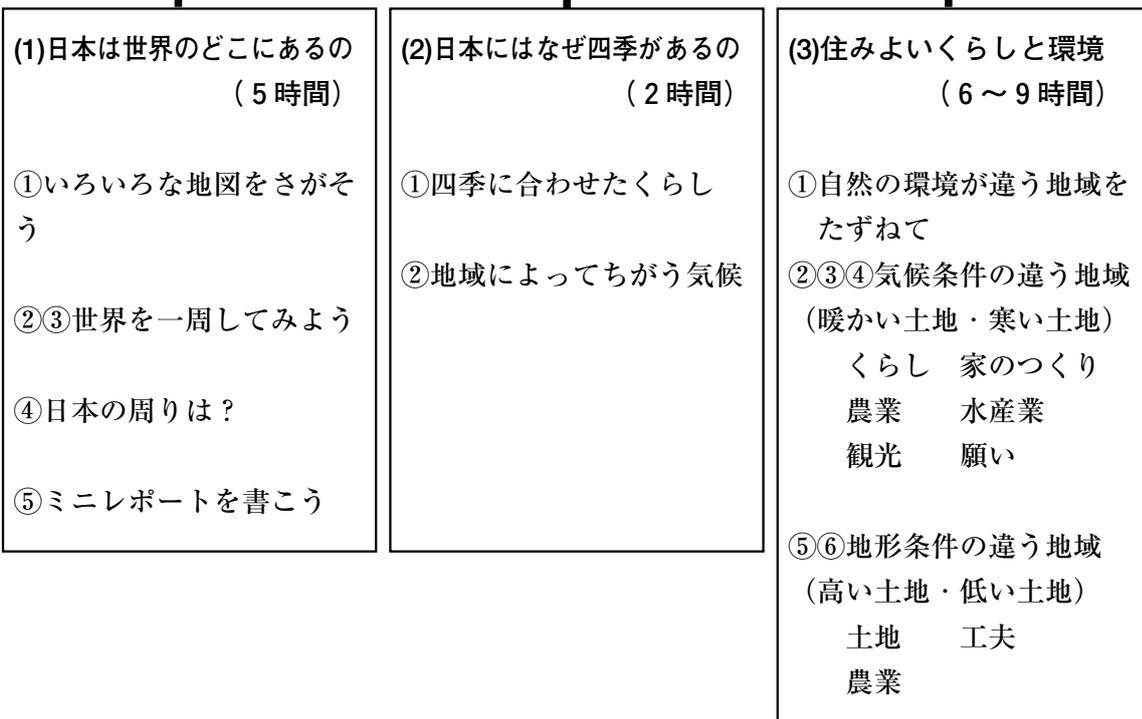


## 1.単元の目標と単元構成

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の国土や自然などの様子，世界の主な国の位置や名称などについて，興味・関心をもって調べることができるようにする。</li> <li>・我が国の国土や自然などの様子について調べ，国土の環境が人々の生活や産業に深く関わっていることを考えることができるようにする。</li> <li>・地図や地球儀，資料などを活用して調べてわかったことを白地図や文章などにわかりやすくまとめさせる。</li> <li>・世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，我が国の位置と領土，国土の地形の概要，自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について理解させる。</li> </ul>
--------	--



## 2. 指導計画作成上の工夫と留意点

### (1) 地図への興味・関心を引き出す

地図学習はともすれば暗記中心の単調な学習に陥りがちである。そこで、児童の身のまわりにある地図を自由に集めてくる学習を導入とした。日常の生活において地図は身近で欠くことのできない便利なものだというところに気づかせたい。

### (2) 選択の視点

#### ① 主な国の名称と位置

「主な国の名称と位置」については、6つの大陸の中で、特に児童の生活や日本にとって関連が深い国を2～4つ程度取り上げる。そして、国名と位置を地図帳や地球儀で調べさせ、白地図に書き込むなどの学習が求められる。必ずしも教科書で取り扱っている国に限定する必要はなく、姉妹都市、その国の出身者が多数居住しているなど、地域に関連が深い国や、最近よく名前を聞く国など、適宜選択したい。

#### ② 特色のある地域の人々の生活

「自然条件から見て特色のある地域の人々の生活」については、気候条件や地形条件から見て特色のある地域を取り上げ、自然環境に適応しながら生活している人々の工夫を具体的に調べさせる。取り上げる地域については自分が住む地域とは異なる自然条件の地域を2～3選択したい。

例) 北海道の学校であれば条件的に異なる

暖かい土地・低い土地・高い土地

東京都の学校であれば条件的に異なる

暖かい土地・寒い土地・高い土地

沖縄県の学校であれば条件的に異なる

寒い土地・高い土地・低い土地

など、地域の特色を考えて選択したい。

### (3) 比較の視点

#### ① 比較して学習することの有用性

「自然条件から見て特色のある地域の人々の生活」については、気候条件および地形条件が違う地域を、それぞれ同一の視点で比較して展開したい。大人ほど生活体験の多くない児童にとって「特色」は単独では見えにくく、比較する対象があった方が理解しやすいと思われる。実際の学習展開にあたっては、例えば暖かい土地を扱う場合、以下のような展開が考えられる。

1. 暖かい土地の気候と家のつくりの特色を調べよう

2. 暖かい土地の気候と産業の特色を調べよう

3. 自然を生かした人々の願いについて調べよう

そして、適宜、寒い土地の写真や絵などの資料と比較して、特色がより鮮明に理解できるようにする。但し、寒い土地については内容まで深入りする必要はない。同様に、低い土地を学習する場合は、例えば、次のような展開が考えられる。

1. 低い土地の人々の水とのたたかについて調べよう

2. 低い土地の条件を生かした農業について調べよう

そして、適宜、高い土地の写真や絵などの資料と比較して、特色がより鮮明に理解できるようにする。但し、高い土地の内容は扱わない。

#### ② 海流、国境、河川の比較

国土の地形や気候の概要を調べる視点として、単に山地や山脈、平野、川などの位置と名称、気候区分などだけではなく、国土全体の地形や気候のイメージを持たせることも重要である。

例えば、与那国島と宗谷地方は、それぞれ暖流の日本海流（黒潮）、寒流のリマン海流の影響を受ける地域である。また、与那国島は台湾と、宗谷地方はロシアと国境を接しており、我が国の位置と領土について理解する上でも活用できる地域である。

また、地形条件が異なる地域については、我が国の主要な河川の上流地域（高い土地）と下流地域（低い土地）を取り上げ、二つの地域を比較しながら土地の高低とその特色を理解させることも有効である。

### (4) 地図帳・地球儀の活用

世界の中での我が国の位置や、国土の地形や気候についてとらえさせるためには、地名や国名が出てくたびに地図帳や地球儀で位置や名称を調べさせる学習を行いたい。また、平野や川、山脈などについて白地図に記入させる活動や雨温図を書く活動を学習の中に位置づけるなど、資料活用能力を伸ばす学習も大切にしたい。

### 3. 展開例

#### (1) 日本は世界のどこにあるの【5時間】

小単元の目標 地球儀や地図を使って世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，主な国の国旗，我が国の位置と領土，日本の地形の特色について調べられるようにする。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	<p>◆いろいろな地図をさがそう (1)</p> <p>◆学習問題をつくらう</p>	<p>①身のまわりの地図をさがす。 ・ハンカチ地図・古地図 ・地球儀・星座早見盤 ・立体地図・カーナビなど</p> <p>○世界の主な国を調べるのに必要な地図をさがす。 ・地図帳・地球儀など</p> <p>○日本の位置や国土の地形について調べる地図をさがす。 ・日本全図・地形図など</p> <p>○地球儀や地図帳を使って世界や日本の国土について調べる計画を立てる。</p>	<p>□地図は幅広く考える。例えば、スーパーマーケットの店内案内図や、星座早見盤も大きくとらえれば地図であることに気づかせる。</p> <p>●立体模型 ●地球儀 ●地図帳 ●古地図 ●カーナビ など</p> <p>&lt;身のまわりにある多くの地図を意欲的に見つけようとしている&gt;【関・意・態】</p> <p>□世界のことについては、世界の主な大陸と海洋，日本や自分たちの生活と関わりの深い国の位置と名称などの範囲に留める。</p>
	調べる	<p>◆地球儀を使ってどこにどんな国があるかがさそう (2)</p>	<p>地球儀や地図を使って主な大陸と海洋，日本の地形や国土などについて調べよう。</p> <p>②③地球儀や地図を使って、世界一周をするつもりで、世界の主な大陸と海洋，主な国の名称と位置，主な国の国旗を調べる。 ・六大陸 ・三海洋 ・主な国の名称と位置，国旗 ・緯度と経度，赤道 ・北半球・南半球 ・時差 ・人々のくらしの様子 ・代表的な建物や産物，動物 など</p>

◆日本の周りの  
国々の様子を調べよう  
(1)

- ④我が国の位置と全体的な地形的特色や、周りの国々、東西南北の端と領土について地図や地球儀を使って調べる。
- ・我が国の位置
  - ・国土の地形的特色
  - ・周りの国々の位置と名称、周りの国々の国旗
  - ・東西南北の端
  - ・北方領土などの領土の問題
- 我が国の国土の位置や周囲の国々について言葉を使って説明する。  
「日本は、北半球のユーラシア大陸の東にあり、国土は細長くて弓のような形をしている。北海道・本州・四国・九州の大きな島のほか多数の島でできている…」

- 日本の国土の全体的な特色をとらえさせる。また、周囲にある国や東西南北の端の島の名称、領土問題などにもふれる。
- 東西南北の端の島の写真
  - 東アジアの衛星写真
- 発展的課題として、東西南北の端の島はどの都道府県に属しているか地図帳で調べさせる。
- 球面に表した衛星写真をもとに、地球を球形としてとらえさせる。
- 球面をイメージした衛星写真
  - 地図帳
- 自分の住む都道府県の位置を国土の中で押さえる。

<我が国の国土の位置や周囲の国々についての的確に説明している> 【技】

◆ミニレポートを書こう (1)

- ⑤日本の地形の白地図を着色しながら日本の国土の特色についてとらえる。
- ・山脈・山地・高地
  - ・平野・盆地
  - ・川
  - ・地形的な特色
    - ・中央付近に山脈・山地・高地が背骨のようにつらなっている。
    - ・海の近くに平野が広がっている。
    - ・平野の中央付近を川が流れている。

- 白地図に着色していく過程で、山脈・山地・高地、平野・盆地、川の位置などの特色について考えさせる。
- 日本の地形の白地図
  - 地図帳
- 山脈・山地・高地、平野・盆地、川などの名称については、必要に応じてそのつど地図を調べさせたりしながら、知識が自然に定着していくようにする。
- <我が国の国土の地形の特色について考え、文章で表現している> 【思・判・表】

- できあがった地図をもとにして日本の国土の特色をミニレポートにまとめる。

- 小単元全体を、世界旅行をするイメージで学習させる。世界一周→東アジア→日本と旅行してきたイメージをもたせる。